

平成29年8月9日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 くさしぎ

代表者名 辻よし子

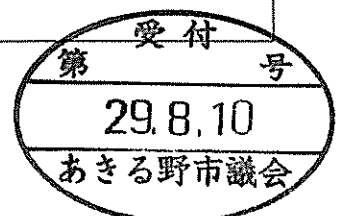


会派の（調査研究・研修）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成 29年 8 月 8 日 (火)
2 調査研究または 研修の場所	アットビジネスセンター池袋駅前別館
3 調査研究事項 または研修名	自治体の経営改革と地方議会のあり方を考える in 東京
4 参加者氏名 (1 名)	辻よし子
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【概 要】

福嶋浩彦氏を講師に、午前は「議会の力は首長を超える」をテーマに、午後は、「人口減少社会と議会」をテーマに講義を受けた。

福嶋氏は、千葉県我孫子市議会議員（3期）を経て我孫子市長（3期）を務め、その後、消費者庁長官（2年）を経て、現在、中央学院大学教授を務めている。

1. 「議会の力は首長を超える」

*議員の役割の一つは、投票した市民の意見や要望を代弁して市政に反映させることである。しかし、それだけで終わってしまえば、議会としての役割を果たしたことはない。議員が個々に意見や要望を行政に上げるだけではなく、議員間で十分に討議をし、合意を得た結果を行政に上げることで、初めて議会の存在意義が生まれる。

*自治体の政策立案に必要な情報は行政の中にあり、首長に情報は集まる仕組みになっている。しかし、市政運営に必要な、もう一つの重要な情報は市民の生活の場にある。それを収集し把握できる力は、一人の首長よりも多数の議員で構成される議会側にある。

*国政においては与党と野党があり、内閣は議会の与党と相談しながら政策を立案するが、地方議会に与党と野党は存在しない。首長は、市民と相談して政策を立案する（市民参加の委員会、審議会、広聴会、意見交換、パブコメ等）。それに対して、議会は議会として市民の声を聞き、議会としての意思決定に反映させなければならない。

*議員間討議を活発化させるためには、賛否だけの討議ではなく、議会として修正案を作る作業が有効。賛成する側も反対する側もそれぞれ 100%賛成反対とは限らず、賛成する側にも「この点はおかしい」、反対する側にも「この点は賛成できる」という部分があることが多い。その中でどう歩み寄って修正を作るかという考えることが自由討議につながる。

2. 「人口減少社会と議会」

*これから 30～50 年は出生率が多少上がっても、日本全体での人口減少は確実に進む。そうした中、自治体間で人口の奪い合いをするのではなく、人口減少を前提にした社

会の仕組み作りが重要である。

＊右肩上がりの社会においては、住民の個々の要望を個々に聞いて政策に反映させるやり方でも通用したが、人口減少社会の時代に入って来た今、様々な要望の中から取捨選択をするために、市民の合意形成を図ることが重要になってきた。

＊市民の合意形成を図るために、行税側ではさまざまな工夫がされている。たとえば、高松市では、文化センターの存続をめぐって「公開施設評価」をおこなっている。これは、まず、文化センターの歴史や現状、将来の利用方針などについて、行政ならびに当施設を利用している市民団体が多角的にセンターの意義を説明する。それに対して専門家から様々な質問が出される。そのやり取りを、無作為抽出で選ばれた市民が市民評価者となって吟味し、施設の存続について最終結論を出すというものである。

＊議会には、こうした市民参加の合意作りをさらにリードするような討議が求められる。また、議会は議会として、請願および陳情の陳述、参考人制度などを積極的に活用し、市民の意見を議員間討議に反映させる工夫が必要である。

(感想)

福岡氏の講義は、市議会議員および市長、さらに消費者庁長官という豊富な体験を元にした具体的な事例を含む内容だったため、たいへん分かりやすく説得力があった。「議会は、行政の監視機関ではない」というお話は、これまで監視機関だと思っていた私にとっては驚きであった。しかし、その意味は、単に監視機関なのではなく、それを越えた意思決定機関であるという意味であり、なるほどと納得できた。そして、議会が意志決定機関となるためには、議員間の討議と合意が不可欠であるが、現在の議会の運営は、実態がそうになっていないのではないか、という問題提起がされた。あきる野市議会が議会改革の一つとして進めている自由討議の意義を改めて確認できる話だった。

また、二元代表についての理解も深まった。首長は首長として市民の意見を反映させた政策提案をするのに対し、議会がどれだけ議会として市民の意見を反映させた討議ができ

るのが重要になってくる。首長と議会が緊張関係を保ちながら、それぞれに市民の意見を反映させる工夫を競い合えば、市民参加の市政は大きく前進するのではないかと思った。

